

特集 愛飲者インタビュー

血液が作れない難病で
余命1ヶ月のハナちゃん

『動物用SOD様食品』で
V字回復!

動物用SOD様食品は
我が家の生命維持装置

東京都にお住まいの宮下みどりさん (72歳)

ペットの食事改善と
『動物用SOD様食品』などで
アレルギーや
がんも克服

小田原でペットショップを営む

上田一生さん (49歳)

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 宮城

住 所 〒158-0094

東京都世田谷区

玉川 1-15-2 B 棟 2802

TEL. 03-5787-3498

協力:株式会社丹羽メディカル研究所

<http://www.niwa-medical.com>

フードとサプリでペットの健康長寿を目指しているペットショップが小田原にある、という話は数年前から耳にしていました。なんでも食事などの相談をしているうちに病院のお薬がいらなくなった、といった噂がいくつもありました。これはぜひお話を伺ってみたいと、今回、ようやく念願叶ってインタビューさせていただきました。

ペットショップ『ハッピーペット』は箱根への玄関口とも言える小田原駅から徒歩8分。東京駅から新幹線に乗れば30分余りという都心からも便利な立地にありました。店内に入っただけ驚いたのが、いきなり『動物用SOD様食品(以下、動物用SOD)』と人間の『SOD』が山積みディスプレイされていたことです。そしてその脇にはずらりと冷凍庫が並び、一見、ペットショップとは思えない風景でした。もちろんワンちゃんのホテルやトリミングも行う普通のペットショップの一面もあります。ただ、このお店が他とは大きく違う点は、犬や猫の食事関連に特化していることです。

「この冷凍庫には馬肉が入っています。馬肉は、私がお勧めする理想的な食事には欠かせないタンパク質源

なのです。犬は人間の約3倍タンパク質が必要です。ところが、ほとんどの市販のドッグフードには、そんなにたくさんのタンパク質が入っていないので補う必要がある。さらに、



動物用SODなどのサプリも必要だ
と思います。動物用SODは活性酸
素除去に絶対に必要なサプリとして
勧めています。日本で飼育されてい
る犬の平均寿命は(アニコム家庭どう
ぶつ白書2022年によると)14歳な
のですが、うちのお客様のワンちゃ
んの平均寿命は17歳〜18歳くらいで
す」

長生きの秘訣は、食事とサプリだ
とお話してくださったのは、お店の
オーナー、上田一生さん。

健康長寿は 動物も高タンパク、ビタミンと 活性酸素除去

もともとは大阪出身の上田さん。
ご実家がペットショップを営まれて
いたことから、子供の頃から犬や猫
には慣れ親しんできました。このま
ま両親のお店を継ぐものだと思っ
ていたところ、お店の経営が思わしく
なく、やむなく閉店してしまっ
たのです。そんなときに、たまたま知
り合った方が小田原のデパートに出
店してくれるペットショップを探し
ていて、上田さんにお声がかかった
のです。ペットのこともショップのこ
ともよく知っているぴったりの人選

だったのでしょう。20年前のこと
でした。デパートの中でお店を始めた
頃は、普通のペットショップだった
そうです。他店と同じように普通の
フードやおやつを扱い、毎日忙しく
していました。

「数年経った頃、とあるチワワの飼い
主さんが、アレルギー用のフードを
求めていらしたんです。まだ3、4
歳の若い子で、前足をしきりと舐め
ていて、指の間が赤く腫れていまし
た。もちろん病院で薬も処方されて
いましたが、薬を飲むと腫れは一時的
に治まります。でも、その薬はや
めることができないと言われたそう
です。飼い主さんは、一生薬を続け
ていていいのか悩んでいました。僕
はその時初めて、医者なんでも治
してくれるのではないのかと疑問に
思ったのです。そして、なんとかし



てあげられないかと、まず、処方さ
れていたステロイドについて調べた
のです。そうしたら、ものすごくた
くさんの副作用の例が出てきて、正
直驚きました。そのひとつに肝臓へ
の負担などもあって、チワワの子も
確かに肝臓の数値が悪くなっていて、
医者はどうしてこんな薬を処方する
のだらうと思ったのが始まりでした」

になりやすいか、ということまで予
測できる時代になったのだそうです。
それは20世紀後半における科学上の
最大の成果と言われています。当然、
これらの研究は、医療に活かされて
いるはずなのですが、実際は、現場の
医者は肝心の分子生物学など少しも
勉強していないというのです。すな
わち栄養と病気の関係についてほと
んど取り組んでいないというのです。

そこから上田さんは猛烈な勢いで
アレルギーのこと、薬のこと、食事
のことなどを調べ始めたのです。
「病院で治らないなら、なんとか食事
やサプリなどで補助できないものか、
改善できないものかと。そんな中で
お二人の先生との出会いがありまし
た。お一人は分子栄養学の三石巖先
生の著書です。三石先生は、健康長
寿は分子学に基づいた食にありと言
われ、高タンパク、高ビタミン、活
性酸素除去が最も重要だと言ってい
ます」

三石巖先生は以前、この会報172
号でもその著書『医学常識はウソだ
らけ』を紹介したことがあります。
著名な分子生物学者で、現代のアリ
ストテレスともいわれた方です。残
念ながら1997年に95歳で他界さ
れています。先生の研究により、
人は生まれながらにしてどんな病気

「三石先生の著書を読み進むと、食
事と同様に必ず出てくるのが活性酸
素の除去なんです。それで活性酸素
とはなんぞやと調べていくと、お二

人目の丹羽朝負先生にたどりついて、SODというサプリを知ることになったんです」

丹羽先生と活性酸素については、会報でも度々紹介してきましたからみなさんも、ご存知だとは思いますが、三石先生も同様に「活性酸素は細胞の電子ドロボーだ、がんの元凶も活性酸素の暗躍だ」と断言しています。丹羽先生と全く同じ見解なのです。

上田さんはお二人の著書を読み進むうちに、ほとんどの薬は対処療法にすぎず、病気を根本的には治せない、治すためには食事などで免疫力をつける、サプリで活性酸素を除去する、といったことに気づいたそうです。

動物用SODで薬いらずに アレルギーや腫瘍にも



そしてチワワの子も食事を改善したら、赤い腫れがなくなり、副作用の強い薬を断つことができたとか。それを見てひとつの確信を持った上田さん。そんなときに転機が訪れました。小田原に移って5年目。入店していた母体のデパートが閉店することになったのです。普通なら意気消沈するところですが、上田さんは、これはひとつのチャンスだと思いました。

「デパートに入っている以上、普通の商品も扱っていかねばいけないし、何かに特化した店というわけにはいきません。ですが、自分の店なら、これまで勉強してきたことを生かせるし、もっと多くのワンちゃん猫ちゃんとの相談にも乗れると思ったんです」

そうして始めた『ハッピーペット』。おやつ類はすべて無添加の自然なもの、をそろえ、フードも厳選したものだけを置くようにしました。アレルギーンのもとになる鶏肉や小麦粉などを使用したフードは極力減らし、さらに冷凍した馬肉を解凍して与えるように勧めたのです。入り口に並んでいた冷凍庫はそのためのものでした。そこに新しく加えたサプリが動物用SODでした。

「三石先生の提唱する高タンパクには、

馬肉がいちばん。活性酸素除去には動物用SOD。効果はすごいですよ。実際、動物用SODで助かった子はたくさんいます。医者に今日危ないかもと言われて店に来た心臓病の13歳の子は、動物用SODを多めにあげたら、数日で回復に向かい、1ヶ月で走れるようになるまで回復しました。16歳の今も元気になっていますよ。なかでもアレルギーやアトピーの子には食事と動物用SODが最適ですね。ほとんどの子が薬いらずになっています。あと、腫瘍の子にもいいです。これは長瀬先生に電話をして、こういう子にはどういうサプリがいいかアドバイスをもらいました。丹羽先生と作られた冬虫夏草やアガリクス、タヒボなどの生薬を組み合わせたものなどの効能も教えていただいたんです。

冬虫夏草は、子宮がんのタイプードルの子にも使ってみました。16歳でお腹が張ってお尻から膿が出たので医者に行ったら子宮がんだと言われ、最新のホルモン治療を勧められたそうです。うちの常連さんでしたから、飼い主さんが薬は使いたくないと言うんです。そこで長瀬先生にも相談して、冬虫夏草と動物用SODを2倍にしてあげてみたんで

す。そうしたら数日で膿が減ってきました。これはひよっとしたら膿が内部にたまっているかもしれないから病院で診てもらおうよう勧めたのです。そうしたら腫れていた子宮が元に戻っていたんです。今18歳で元気にしています

動物用SODはがんの子にもいいようです。10歳くらいの肝臓がんや黄疸が出ていたミニチュアダックスの子に、いつもの3倍の動物用SODとアガリクスを飲んでもらったら、1ヶ月くらいで正常値になったんです。大学病院に行く予定でしたが、かかりつけの医者が、サプリだけで良くなるなんてと驚かれ、もう大学病院に行く必要はないと言われたそうです」

丹羽先生が特に処方していた生薬の冬虫夏草、アガリクス、タヒボといった材料を自分で採し、それらの生薬をオリジナルにパッケージ化して使用したのには驚きでした。こんなに勉強して、実際に現場で具合の悪い子たちを見て、食事やサプリで改善にもっていくペットショップなんてそうはいないはず。その評判は口コミで広がり、関東や関西、なかには九州からもカウンセリングの問い合わせがあるとか。

何気なくあげている フードやおやつで 腸内環境悪化の可能性

「僕は医者ではありませんから、診察はあくまでも病院に行っていただくことを勧めています。それでも改善されないといった方や、薬はなるべく飲ませたくない、不安だという方には食事を変えてみることを、サプリメントをプラスしてあげることを勧めています。症状や年齢によっても多種多様ですが、ペットも人も同様に、腸内環境を整えてあげることが免疫力アップにつながりますよね」

コロナ禍のときに取材させていただいた井上正康医学博士(大阪市立大学名誉教授)も「免疫力の7割が腸にある」とおっしゃっていました。

「何気なくあげているおやつやフードにもアレルギーを引き起こす材料が入っていたりします。また、フードに腸内環境を整える成分が入っていないことも多いので、腸内環境の良くない子が多いです」

腸内環境が良くないと、免疫力が低下し、あらゆる病気の危険性があるといえます。それは人もペットも一緒。

上田さんのお話を聞いてみると、

ついつい自分の犬の相談をしたくなりしました。柔らかな物腰と優しい口調。丁寧に親身になって相談に乗ってくれるからこそ、たくさんのお客様に信頼されているのでしょう。もちろんそこには確かな知識があつてのこと。昨年からオリジナルのフードやサプリメントを開発し、よりペットの状態に合わせたチョイスができるようになったのです。そして、近々webで『アレルギー根絶ドッグカウンセラー養成講座』を開講する予定だとか。

「まだまだ病院に通っていてもアレルギーが完治しないでお薬を飲み続けている愛犬がたくさんいます。その方たちのために、自分の経験とノウハウを活かして、アレルギーを根絶できる仲間を作ろうという試みなんです。アレルギー根絶ドッグカウンセラーが増えれば、その地域の飼い主さん、愛犬は必ず助かると思うのです」

web上で全国の人たちと連携でき、ズームで直接会話もできる、そんな時代だからこそ素晴らしい試み。上田さんの経験やノウハウがこの先どのような広がりを見せていくのか楽しみです。

ハッピーペット

〒250-0011
神奈川県小田原市栄町 1-16-34
TEL:0465-23-5980

営業時間 10:00 ~ 19:00
(12:00 ~ 13:00 休憩)

定休日 火曜日、水曜日

カウンセリング 完全予約制

TEL:080-5324-7627
Mail: issei8415@icloud.com

電話もしくはメールにてお問い合わせ
遠方の方はZOOMカウンセリングで
きます。

SOD愛飲者 インタビュー

血液が作れない難病で余命1ヶ月のハナちゃん
『動物用SOD様食品』でV字回復！
動物用SOD様食品は我が家の生命維持装置

東京都にお住まいの宮下みどりさん(72歳)

今回インタビューをさせていただいたのは、8歳になる小型のミックス犬「ハナちゃん」の飼い主、宮下みどりさんです。お住まいは、閑静な住宅街の多い、東京都23区北西部の一角にあるマンション。周囲は桜

を始め木々に囲まれ、中庭には50メートル四方の人工池。小型犬のお散歩なら敷地内だけでも十分。さらにマンション内には共有のスパやパーティールームも完備。
「窓からの景色が気に入ってしまっ

て、すぐに決めました」

リビングの大きな窓から臨む桜並木はまるで絵画のよう。お子さんたちが独立し、ご夫婦ふたりでは広すぎる戸建てからこちらに引越して10年。最初に犬を飼いたいと言いだしたのは奥様のみどりさんでした。お子様も手を離れたけれど、体力はまだまだあり、生活に張り合いが欲しいと思う年代です。

「でも、主人が犬を飼うことに反対だったんです。自分たちに何かあって、飼えなくなったらどうするのかと。ひとつの命を10年以上も飼う自信がないと言うんです。慎重なんですね。当時主人は75歳で自分の老後を考える、15年前後という犬の寿命まで自分たちが元気で飼い続けられるのか心配だったんでしょね。そんな時にとあるテレビ番組で、ミックス犬の繁殖を主にしているブリーダーさんのことを知ったのです。ミックス犬というかデザイン犬というのだからですが、自然豊かな広いところで自由に走り回っている子犬の映像を見て、主人の表情がすごくやわらいだんです。これはいける、と思ってすぐに見に行っただけです。そして案の定、もうその気になっていましたね」



次女のモモちゃん

そうして出会ったのがハナちゃんでした。最初からみどりさんにピタッとくっついて離れなかったそうです。その日のうちに宮下家の一員になり、宮下家は明るい笑顔と子犬の鳴き声に満ちあふれたのです。

「いちばん変わったのは主人でした。もうメロメロで、外出してもすぐ帰ってくるようになったんですよ」

その変化はさらにエスカレートして、数ヶ月後、もうひとり家族が増えたのです。

「主人が、こんなにかわいいと思わなかったから、もう一匹飼いたいと言いだしたんです。お留守番の時にハナが寂しくないし、なんて言って笑っちゃいますよね」

次女のモモちゃんを迎えたのはハナちゃんが来てから2ヶ月後のことでした。ご主人もちょうど仕事を引退されていて、時期的に良かったのでしょうか。

ご主人が急逝 犬たちが支えてくれた日々

それは今から振り返ると、あつという間の出来事だったそうです。ハナちゃん、モモちゃんを迎えて1年後、2匹のことを誰よりもかわいがっていたご主人が、突然、この世を去ったのです。

「あれは6年前の5月の連休後のことです。部屋で転んでしまい、骨折したんです。救急車で運ばれてそのまま入院しまして、1ヶ月間歩けなかったんです。そうしたら足の筋肉が弱って、リハビリを兼ねた施設に入ったらどうかなどと話していた矢先、突然、病院から主人の容態が急変したと連絡が入ったんです。私が病院に行ったらもう亡くなっていて、急性心不全でした」

享年76歳。特に心臓に持病がなかったわけではなかったそうですが、何があってもおかしくない年齢に差し加っていたのかもしれない。いずれにしても突然伴侶を亡くしたみどりさんの心痛はいかばかりだったでしょうか。

「確かにすごくショックでしたが、家に帰れば、何も知らないハナとモモがお腹を空かせて待っているんです。尻尾を大きく振りながら、喜んで飛びついて来るんです。そんな姿にもすごく救われましたね。私だけを頼りにしているこの子たちがいるから頑張らないといけない」

頑張らなければと言いながら、逆に愛犬たちに励まされ、癒やされていたのはみどりさんだったのかもしれない。

重度の貧血で余命宣告 動物用SODで数日後 奇跡が起きた

ひとり暮らしというか、ハナちゃん、モモちゃんを加えた3人家族の生活にもすっかり慣れ、何度目かの満開の桜が散った頃、ハナちゃんに異変が起きました。それは去年(2022年)春のことでした。

「2, 3日前からハナの元気がなかったんです。お散歩に出てもすぐにへばって抱っこをせがむんです。これはなにかおかしいと思い、近所の病院に連れて行きました。そうしたら重度の貧血で、このままでは2, 3日しかもたない。つまり余命2, 3日と言われ、急遽、輸血をしてもらったのですが、5時間もかかり、そんなに容態に変化がなかったんです。加えてステロイドと免疫抑制剤のお薬を朝夕7錠ずつ処方されました。なんか薬が多すぎるような気がしたんです。そうしたら案の定、薬をあげるとぐったりするんです。切れかると少し持ち直すんです。2回目に薬をあげたら、うつろになって、これはよくない、やめようと決断しました」

ハナちゃんの体重は4・7kg。ここにこれらのお薬はさすがに多すぎる、みどりさんが危惧するのも無理はありません。すぐ病院を変える決心をしたそのときに、友人が紹介してくれたのが、全国から難病の患者さんが頼って来るという中野区にあるとある獣医さんでした。

「電話で症状を説明したら翌日すぐに診察してもらえたんです。そしてやはり薬の量が多すぎると、ハナの

症状に合わないと言われ、呼吸がラクになる注射と尿がよく出る薬を処方されたのですが、ここでも先生は頭を抱えていました。原因や、対処法が明確には分からないとかで、もって1ヶ月かもしれないと。5月の半ばで、主人が亡くなったのが6月でしたから、主人が連れて行こうとしているのかもしれないと、仏壇に向かって、ハナを連れていかないと泣きながらお願いしました」

セカンドオピニオンの病院は、薬の強さなどを繊細に考慮してくれて、すぐく親身にケアしてくれたそうです。しかし、容態はいつこうに良くなかなかつたとか。

「病院通いもハナの負担になるし、ちょうど夏で猛暑だったので、病院通いをやめたんです。つまり、なかば諦めたんですね。もう、家で安らかに逝かせてあげようと。そんなときに届いたのがSOD研究会の会報でした。ちょうど獣医さんのインタビュー記事で、読んでいたらSODの動物用があることや、難病にそれがマストのようなことが書かれていて、これだ！これが最後の望みの綱だと思ったのです」

実はみどりさん、10年ほど前から健康食品等に興味を持ち、近所の健

康食品のお店によく通っていたそうです。そのお店のオーナーが健康のことに詳しく、SODを勧めてくれたので、定期的にSODは飲んでいたのでした。

「お話を聞いて、自分でもいろいろ調べて、これは本当にいいものだ納得したから飲んでいたんですが、そのSODと同じ会社から出ている犬用なら間違いないと思えたんです。効くか効かないかは分からないけど、体に悪いものは絶対に入っていないから、とにかくやってみよう」と

電話でハナちゃんの状態を話したら、翌日には「動物用SOD」が届き、すぐに1包飲ませたのです。

「そうしたら翌朝、うつろだったハナの目に少し輝きが戻ったのです。これはいける、と思って翌日には2包あげてみたんです。ハナの体重なら1包なんですけど、それは健康な子の量でしょ？病気なんだから思い切って2包あげてみたのです。ほら、人間用のSODも具合が悪いときは多めに飲むといいて書いてあったでしょ？そうしたら翌日、ハナがむくっと起き上がって、歩き出したんです。これまで起き上がることもしんどそうだったハナが、自分で起き上がってご飯を食べ始めたんで

す。もうびっくりでした」

治療費や薬代を考えたらSODや動物用SOD代は安いもの

その日からハナちゃんは見える見る元気になり、見た目は元の状態まで元気になっていました。みどりさんが動物用SODを飲ませてみようと思い立ったときに読んだ会報は、2022年6月に発行された会報220号のことでした。特集記事は動物用SODを丹羽先生と一緒に共同開発した、世田谷区のジェナー動物クリニック長瀬院長のインタビュー。そこで先生は「人も動物も息をすれば同時に活性酸素が発生する。加齢と共にそれを除去する機能、抗酸化システムが減っていくから、それを除去してくれるSODはすべての病気治療の基盤になる」と言っています。その記事から、彼女は動物用SODを選んだのです。

猛暑が少しやわらいだ9月下旬、みどりさんは久しぶりにハナちゃんを連れて病院に行きました。

「あまりにも元気なハナを診た先生がびっくりしていました。血液検査もしたのですが、数値はほんの少し

良くなっているだけなんです。それなのに目の前のハナは生気に満ちあふれ元気そのもの。先生もこの状態が信じられない、奇跡ですねとおっしゃって、何かしましたかと聞かれたのですが、動物用SODのことは話しても信じてもらえないと思って、やめておきました。でも先生もこんなことは初めてだと喜んでくれました」

病院でいろいろ調べてもらった結果、ハナちゃんは生まれつき血液を作る骨髄の機能が弱いのではないかとのことでした。なので、その機能自体が完治したわけではなく、動物用SODが補助できているのではないのでしょうか。だから数値的には現れないのかもしれませんが、以前、人の白血病の体験談でも数値はそんなに良くはなっていないけど、元氣になられた方がいました。丹羽先生も、がんや難病などは現代の医療では完治できない。代わりに僕の治療で副作用なく安全に改善できるとおっしゃっていたのを思い出します。

そんなこんなで数ヶ月、ハナちゃんばかりにかかりつきりでしたら、今度はモモちゃんの様子に異変が。

「下痢を繰り返すようになって、病院に行ったら、自律神経失調症だと言

われました。精神的に不安定になっているから、おもいきりスキンシップをしてかわいがってあげてくださいって言われました。犬は分かっているんですよ。ハナが病気で大変だから、自分は我慢しないといけないって。モモには申し訳ないこととしたなって、モモにもすぐ動物用SODをあげていっぱいスキンシップしています。おかげで元氣になりました」

モモちゃんも健気に我慢していたのでしょね。いい病院と動物用SODがあつてひと安心といったところでしょうか。

「動物用SODは我が家に欠かせない生命維持装置のようなものです。病院代や薬代のことを考えたら、SODや動物用SOD代なんて安いものです。みんなに是非このことを知ってもらいたいです。これは健康を維持するのに絶対に必要なものだって。今病氣の子も、ぜひ試していただきたいんです。だって、目の前のハナが証明してくれているんですから」

そうおっしゃるみどりさんも、ハツラツとしてお若い。聞けば、ご主人が亡くなられてから、近所の介護施設で1日2時間働いているとか。

「主人の病院通いをしているとき、バス停に求人紙がしてあったんです。朝7時から9時まで、朝食のお手伝いをする仕事なんです。暇になったのでちょうどいいかなと始めたから、これが勉強になるんです。何年か後、自分も人のお世話になるかもしれないですから、知っておくのと知らないのでは雲泥の差ですね。何事もトライすることは楽しいです」

なるほど、みどりさんの見識やバイタリティ、決断力などは、ここからきていたのですね。ハナちゃんを迎えたときの決断。ブリーダーさんの選択。最初の病院を辞めてセカンドオピニオンをみつけたこと。会報を毎回ちゃんと読んでいたこと。動物用SODにたどり着いたこと。すべてが好奇心旺盛で前向きにトライすることを楽しんでいるから得たものなんですね。

みどりさんとハナちゃんの経験が誰かの幸せにつながることを願ってやみません。



本紙の利用に関するお願い

日本SOD研究会報は、株式会社丹羽メディカル研究所のみ利用許諾をしております。当研究会の許可なく、文章、画像の一部および全てについて、販促物利用、転載、複製、複写、転用、編集、ブログへの引用などの二次利用を固く禁じます。丹羽メディカル研究所が許可した場合はこの限りではありません。

SOD様作用食品体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都世田谷区玉川 1-15-2 B棟 2802

日本SOD研究会 宮城宛

Tel 03-5787-3498

までご一報下さい。

●SOD様作用食品とは●

丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力ぎを握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや生活習慣病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽朝負（耕三）医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に



二十年もの歳月が必要でした。「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの、私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています。

先生は生前、土佐丹羽クリニックの院長として日々、医療の現場で、がん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられていました。また、SODなどを始めとする論文は高い評価を得て、日本のみならず海外の学会で講演したり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送られました。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

SOD研究会からのお知らせ

いつもSOD研究会報をご覧いただきありがとうございます。

最近、特に当研究会へお問い合わせいただくことが多い内容についてお知らせ致します。「丹羽耕三博士のSOD様食品は金の笠のシールが貼られていれば、どこも同じものなのではないでしょうか？」というような、ご質問をよくいただきます。

その回答としましては、金の笠（管理番号付）シールは丹羽免疫研究所で分析・検定し、エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で開発当初から、厳しい品質管理のもとに伝統的な製法で造られる製品だけに貼付される信頼の証（マーク）でした。しかし、ここ数年前より丹羽先生の考えで別の工場で製造されたSOD様食品にも金の笠のシールが貼られ、販売されているものもあります。土佐清水市の工場で製造されたか、そうでないかを見比べる一つの目安が、まず金の笠シールの特徴にあります。

エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で製造されている製品シールの特徴



原寸大 横 30mm、縦 25mm

- 管理番号は6桁
※土佐清水で製造された証明の通し番号となっています。
- シール左部分に絵や記号が記載されている
※左部分の表示は製品管理の為、不定期に変わります。
- 他の工場で製造された製品と比べ、原末の味や色、粒の大きさが違う場合などがある

◆現在、丹羽療法の診察は皮膚科のみとなります。ご希望の方はご予約いたします。（※自由診療）
※診療日等に関しましては、状況により変更、休診となることもあります。予めご了承ください。

丹羽メディカル研究所 ☎ 0120(731)175